ある眼（め）

原作（げんさく）:竹久夢二（たけひさゆめじ）

https://www.aozora.gr.jp/cards/000212/files/1559_7944.html

このお話（はなし）を書（か）き換（か）えた人（ひと）：田畑（たばた）サンドーム光恵（みつえ）

お話（はなし）を作（つく）るのを手伝（てつだ）ってくれた人（ひと）：田中麻美先生（たなかまみせんせい）

イラストはご存知（ぞんじ）、「いらすとや」さんです：https://www.irasutoya.com/

イラストの中（なか）には合成（ごうせい）したものもあります。

私の友だちのＡは画家です。モデルを使って、いろいろな人の絵を描いています。ある時、彼が一人のモデルの話を始めました。

「彼女のどこがいいのかと聞かれても、簡単に説明できないんです。その少女はモデルとしてはふつうでした。年は17、18歳ぐらいだったと思います。2週

間、私のアトリエに通って来ていました。

　私は彼女に特に注意を払っていませんでした。彼女は背は高いけれど、本当に、ごくふつうの少女だったのです。

　彼女は、性格も別に特徴の無い子でした。ほかの同じ年ぐらいの少女よりずっと元気でもないし、ずっとおとなしいということもありませんでした。

　ただ、人に話しかけられると返事をする代わりに、いつも「まあ」と言ってニコッと笑って相手の顔を見るのです。その時の彼女の眼は、一

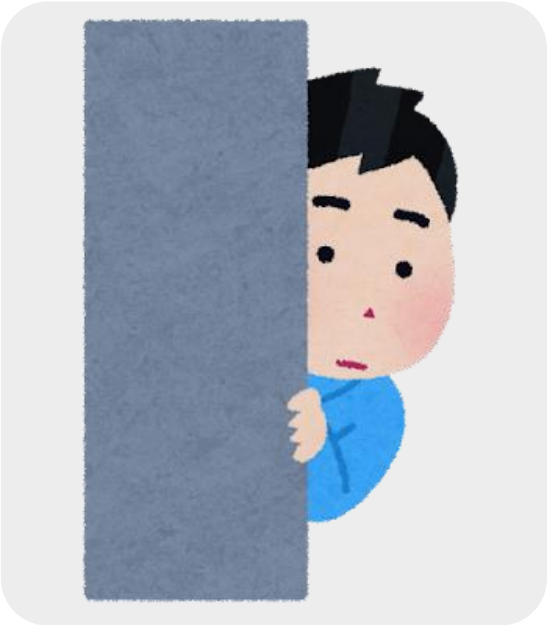
瞬、黒目が濡れたように見えてとても美しいのです。

　また、彼女の「まあ」という返事が、「はい」でも「いいえ」でもなく、相手の言うことをそっくりそのまま受け入れて、上手にかわしているような感じにも聞こえるのです。

　そのため、時にはとても頭のいい女の人のように聞こえるときもあります。そうかと思うと、子供っぽい間の抜けた返事のように聞こえるときもあります。

　さて、女の人が人に見られていることを全然気にしないで、自由に振舞っている時は、とても美しいものです。

そして、私たちは、そういう時に黙ってその女の人を覗くことに悪魔的な楽しさを感じて、少しドキドキ、ワクワクするかもしれません。



ある日、そのモデルの少女の絵を描いていたとき、絵の具の何色かがなくなってしまいました。そこで、私は、彼女を一人アトリエに残して、絵の具を買いに行きました。

私が帰って来たとき、彼女は何か一生懸命やっているようで、私には気づきませんでした。そこで、私は窓の外からそうっと彼女を覗いていました。

彼女は、一生懸命に前髪を指で引っ張っていました。そして、その髪の先を鼻の前まで引っ張って、じっと見ているのです。

顔の真ん中の鼻の前の髪を見ているので、彼女の眼は自然に真ん中に寄っています。

まるで、忍者が顔の前で両手を合わせて忍術を唱えている時のような顔になっているのです。

　私は思わず笑ってしまいそうになりましたが、笑いをこらえて、彼女に声をかけました。

「ゆかりちゃん。何してるの？」

彼女は、親しみを込めた眼で私を見て、いつものように

「まあ」

と答えました。その一瞬の彼女はとても綺麗でした。

その後も、私は彼女の絵を描き続けました。でも、ついにその時の美しさを絵の中にとらえることはできませんでした。

（705語）